

# NISA 概要レポート 2026 年上半期

## 投信残高 200 兆円突破、NISA 利用はなお発展途上

### モーニングスター

2026 年 7 月 7 日

#### 目次

- 2 主なポイント
- 3 新 NISA 残高分析
- 5 新 NISA 利用率分析
- 6 資金フロー動向
- 16 まとめ

元利 大輔  
モーニングスター・ジャパン  
マネジャー・リサーチ部長  
+81 3 4510-5492  
daisuke.motori@morningstar.com

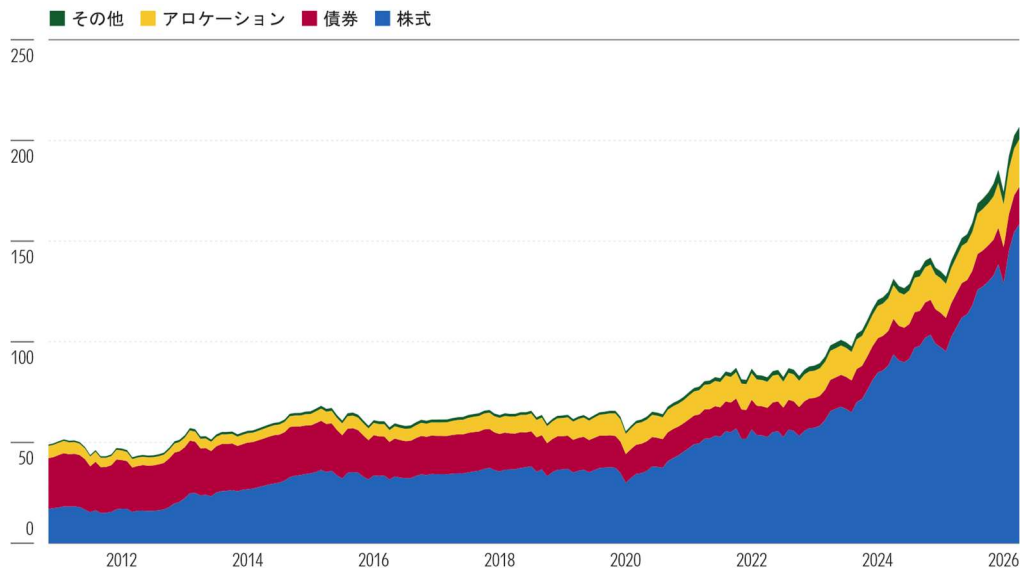
#### 重要事項

Morningstar のアナリストの行為は、倫理規程/職業行為規範ポリシー、個人の証券等取引（またはこれに準ずる）ポリシーおよび投資調査ポリシーによって規定されています。利益相反に関する詳細については、以下をご覧ください。  
[global.morningstar.com/equitydisclosures](https://global.morningstar.com/equitydisclosures)

### 概要

日本の投資信託市場では資金流入が一段と拡大している。新 NISA を中心とした継続的な資金流入に加え、好調な市場パフォーマンスも追い風となり、日本籍公募株式追加型投資信託の残高は 2026 年 5 月に 200 兆円を突破した。本レポートでは、新 NISA の残高増加要因や口座利用状況、2026 年上半期および第 2 四半期における投資信託市場の資金フロー、新設ファンドや資産クラス・カテゴリ別の動向をデータに基づき多角的に分析した。低コストのインデックス・ファンドへの資金集中が続く一方で、テーマ型ファンドやアロケーション型ファンドにも資金が向かうなか、投資家の長期投資や分散投資を志向する動きがどのように表れているのかを明らかにする。

図表 1 投資信託の残高は 200 兆円を突破



出所: Morningstar Direct より Morningstar Research が作成。単位は兆円。日本籍公募追加型株式投資信託を対象、ETF は除く。

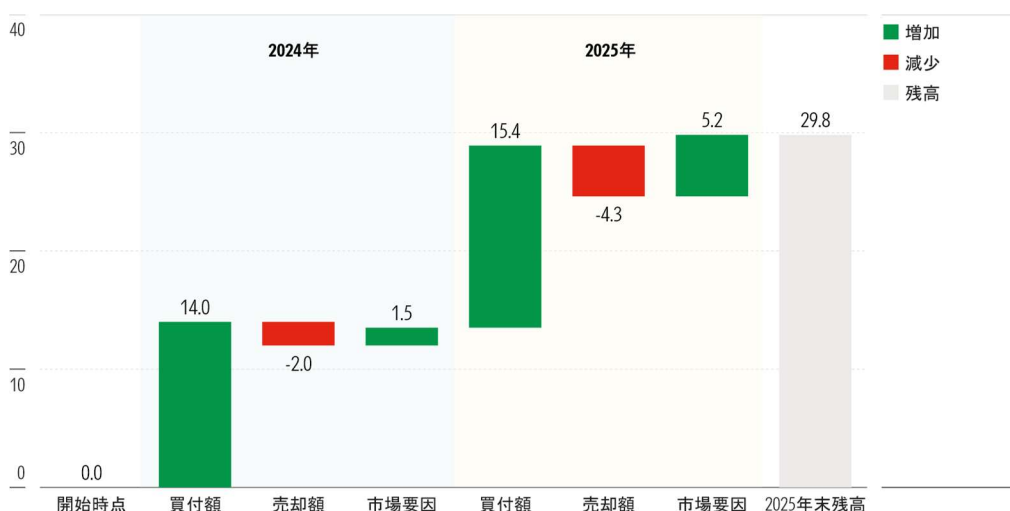
### 主なポイント

- ▶ 日本籍公募株式追加型投資信託の残高は 2026 年 5 月に 200 兆円を突破した。新 NISA を中心とした継続的な資金流入に加え、好調な市場パフォーマンスも追い風となり、投資信託市場の規模は一段と拡大している。
- ▶ 証券会社における新 NISA の残高は 2025 年末に 29.8 兆円となり、2024 年末の 13.5 兆円から 2 倍以上に増加した。残高増加の主因は資金流入である一方、市場要因による増加分も無視できない大きさである。
- ▶ 新 NISA の口座開設は広がっているものの、証券会社の新 NISA 口座のうち 2025 年中に買付のあった稼働口座は約 6 割にとどまり、約 4 割は未稼働である。口座開設後の実際の利用促進は、引き続き重要な課題である。
- ▶ 2026 年上半期の日本籍公募株式追加型投資信託への純資金流入額は 12 兆 2,600 億円となり、前年同期を大きく上回った。第 2 四半期も 5 兆 5,425 億円と高水準を維持し、投資信託市場への資金流入は引き続き拡大している。
- ▶ 資金流入の中心は引き続き NISA 対象ファンドであり、低コストの株式インデックス・ファンドへの資金集中が続いている。一方で、AI、半導体、素材、新興国株式など、相場テーマや成長分野を意識したファンドにも資金が向かっている。これらのファンドへの資金流入は、低コストのインデックス・ファンドを中核に据える投資家層とは異なり、足元の相場テーマや販売会社の商品提案に反応する投資家層による資金である可能性がある。
- ▶ 新設ファンドでは、テーマ性や成長分野を打ち出したファンドが大きな資金を集めた。特に、テクノロジー、素材、新興国、AI などストーリー性を持ったファンドが、設定直後から大きな資金流入を記録した点が特徴的である。
- ▶ 資産クラス別では株式型ファンドへの資金流入が圧倒的に多い一方、アロケーション型ファンドにも継続的な資金流入が見られ、分散投資を意識した動きも確認された。ただし、債券型・REIT 型では資金流出が続き、分散投資の広がりにはなお濃淡がある。NISA を通じた長期投資の拡大を継続しつつ、投資家には、自身のリスク許容度に応じて、特定の商品や資産クラスに過度に偏らないポートフォリオを構築していくことが求められる。

### 新 NISA 残高分析

2026 年 5 月に公表された日本証券業協会の NISA 利用状況調査<sup>1</sup>によると、証券会社全社における新 NISA の残高は 2025 年末には 29.8 兆円となり、2024 年末の 13.5 兆円から 2 倍以上となった（図表 2）。残高の大幅増の主因は資金流入である。2024 年末から 2025 年末でみると、買付額 15.4 兆円に対し売却額は 4.3 兆円であり、純資金流入額（買付から売却を差し引いた額）は 11.1 兆円と、残高増加分の約 7 割を占める。一方、増加分の約 3 割に該当する 5.2 兆円は市場要因（評価益等によるもの）とみることができる。引き続き、資金流入が残高増の主因ではあるものの、市場要因による増加分も無視できない大きさである。新 NISA 開始初年度の 2024 年からの 2 年累計で見ても、残高に占める純資金流入の比率は約 8 割、市場要因が約 2 割である。これは投じた元本（純資金流入）に対し、単純計算で約 3 割（2 年累計）の含み益が生じていることを示しており、新 NISA 開始後の 2 年間では、良好な市場環境が投資成果を押し上げたと考えられる。

図表 2 新 NISA の残高増加要因



出所: 日本証券業協会データより Morningstar Research が作成。単位は兆円。

投資枠別の残高をみると、成長投資枠が 19.6 兆円、つみたて投資枠が 10.2 兆円である。いずれの枠でも純資金流入が残高増加の 8 割前後を占めている。残高の伸び率では、つみたて投資枠（+139%）が成長投資枠（+111%）を上回った。年間の投資上限が大きい成長投資枠は残高規模が大きい一方、つみたて投資枠は継続的な資金流入により伸び率が大きい。

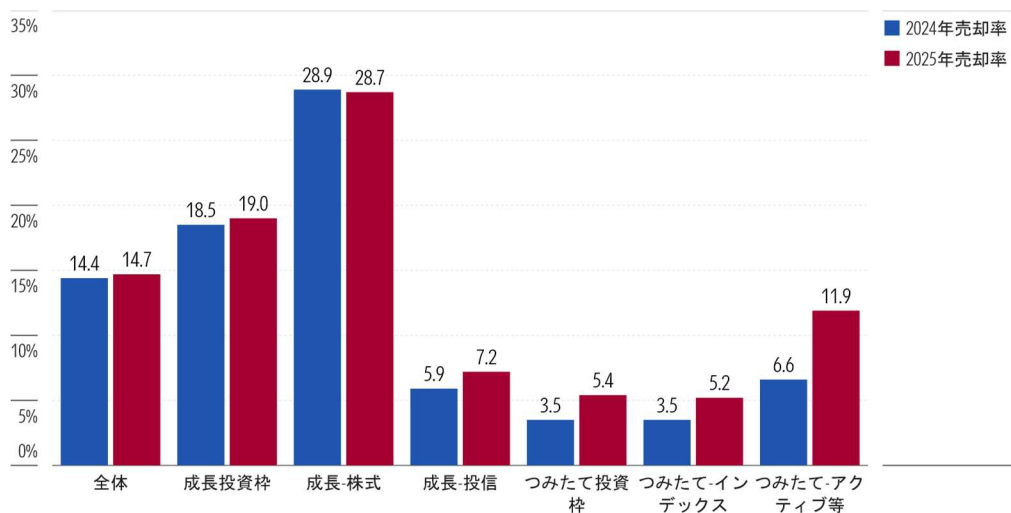
NISA が長期にわたる資産形成をサポートする制度として改訂されたことを踏まえると、売却率は長期投資の定着率を表す重要な指標となる。新 NISA 全体の売却率<sup>2</sup>は 2025 年は 14.7%と、前年の 14.4%とほぼ同水準であった（図表 3）。投資枠・商品別に見ると、成長投資枠の上場株式は 28.7%と高く、利益確定を含む売買が活発であったことを示している。一方、成長投資枠の投資信託やつみたて投資枠には、それぞれ

<sup>1</sup> 本レポート執筆時点で金融庁の利用状況調査の更新が無いため、日本証券業協会の調査結果に基づき分析を行っている。日本証券業協会の調査は、証券会社全社を対象としたものであり、新 NISA 口座の約 7 割をカバーしている（2025 年 6 月末時点）。

<sup>2</sup> 新 NISA 開始後 2 年で引き続き買付額が残高に占める割合が大きいことから、売却率は売却額 ÷（前年末残高 + 当年買付額）で求めている。

7.2%、5.4%と低く、長期保有の姿勢が際立っている。ただし、つみたて投資枠におけるアクティブ投信等の売却率は 11.9%と高い。これは、同分類内に値動の大きい少数銘柄のみで構成される指数に連動するファンドが含まれ、それらのファンドでの売却率が高かったためとみられる。これらのファンドは、つみたて投資枠の要件は満たすものの、投資家は長期投資用のファンドとしては見ていない可能性がある。

図表 3 新 NISA における売却率



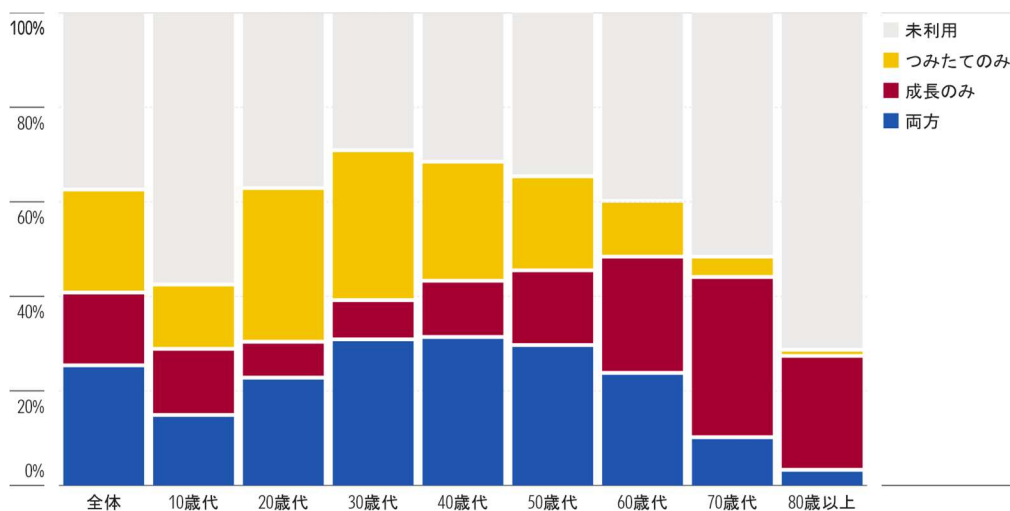
出所: 日本証券業協会公表データより Morningstar Research が作成。

### 新 NISA 利用率分析

次に、NISA 口座の利用実態をみる。証券会社の NISA 口座数は 2,052 万にのぼるが、このうち 2025 年中に買付のあった稼働口座は約 6 割（62.2%）にとどまり、残る 37.8%は未稼働である（図表 4）。利用の内訳をみると、成長・つみたての両枠を使う「両方利用」が 25.0%と最も多く、次いで「つみたてのみ」が 21.8%、「成長のみ」が 15.4%と続く。枠別の利用率ではつみたて投資枠（46.7%）が成長投資枠（40.4%）を上回り、つみたて投資枠を入口とする利用が広がっていることがうかがえる。一方で NISA 口座の約 4 割が依然として未稼働であり、開設後の利用促進が引き続きの課題である。新 NISA 口座開設率が約 25%であることを踏まえると、実際に買付を行っている人の割合は国民全体で見ればなお限定的とみられ、口座開設後の利用促進が引き続き課題である。2027 年より開始が予定されている「こども NISA」においても、口座開設のみならず利用促進を含めた取り組みが必要となるであろう。

利用率には明確な世代差がある。稼働口座率は 30 歳代が 70.6%と最も高い一方、若年層・高齢層ほど低くなり、10 歳代では 42.1%、70 歳代や 80 歳以上でも 40%を下回る。枠別にみると、つみたて投資枠の利用率は 20～40 歳代で高く（30 歳代は 62.3%と最高）、年齢が上がるほど低下する。逆に成長投資枠の利用率は高齢層ほど高く、60 歳代では 48.0%に達する。70 歳代以上ではつみたて投資枠の利用率が 1 割前後（80 歳以上は 4.2%）にとどまり、成長投資枠が中心となる。2025 年末の残高を見ても、高齢層になるほど成長投資枠の残高シェアが高まっており、現役世代は積立投資による資産形成、高齢層は成長投資枠中心の利用と、世代による使い方の違いが明確になっている。

図表 4 新 NISA 口座利用率



出所: 日本証券業協会公表データより Morningstar Research が作成。

## 資金フロー動向

### 全体

2026 年上半期（1-6 月）における、日本籍公募株式追加型投資信託への純資金流入額（設定額から解約・償還額を差し引いた金額）は 12 兆 2,600 億円となった（図表 5）。前年同期の 7 兆 8,533 億円を大きく上回り、投資信託市場への資金流入は引き続き高水準で推移している。NISA の年初一括買いの影響が薄れる第 2 四半期（4-6 月）においても純資金流入額は高水準を維持し、前年同期の 2 兆 5,285 億円から倍増となる 5 兆 5,425 億円を記録した。月別の推移をみても、4 月から 6 月にかけていずれも 1 兆円を超える純資金流入となり、2025 年 9 月から 10 カ月連続で 1 兆円を超えた。特に 6 月は 2 兆 5,706 億円の純資金流入を記録し、2026 年では 1 月、3 月に続き 3 回目の 2 兆円超えとなった（図表 6）。

このうち、NISA 対象ファンドへの純資金流入額は上半期累計で 9 兆 7,336 億円となり、前年同期の 6 兆 5,806 億円から大きく増加した。第 2 四半期では 4 兆 423 億円となり、前年同期の 2 兆 1,684 億円を大幅に上回った。NISA 対象ファンドは、引き続き市場全体の純資金流入の中心となっている。特に、低コストのインデックス・ファンドが中心となるつみたて投資枠対象ファンドへの流入は上半期累計で 6 兆 3,474 億円、第 2 四半期で 2 兆 8,915 億円となり、NISA 対象ファンド全体の中でも大きな割合を占めている。一方、成長投資枠対象ファンドも上半期累計で 9 兆 6,182 億円、第 2 四半期で 3 兆 9,857 億円の純資金流入を記録しており、NISA を通じた投資資金はつみたて投資枠対象ファンドに集中しつつも、成長投資枠対象ファンドにも幅広く流入している。

分析対象のユニバースを一般公販ファンド（約 4,200 本）に限定<sup>3</sup>した場合、2026 年上半期の純資金流入額は 10 兆 5,076 億円、第 2 四半期は 4 兆 6,052 億円であった。このうち、NISA 対象ファンドへの純資金流入額は上半期累計で 9 兆 5,420 億円、第 2 四半期で 3 兆 9,242 億円となった。一般公販ファンドにおいても、NISA 対象ファンドが純資金流入の大部分を占める構図は変わっていない。ただし、NISA 非対象ファンドも上半期累計で 9,656 億円、第 2 四半期で 6,810 億円の純資金流入となっており、NISA 対象ファンドへの集中が続く一方で、NISA 対象外の商品にも一定の資金流入が見られた。

図表 5 2026 年上半期の純資金流入額（億円）

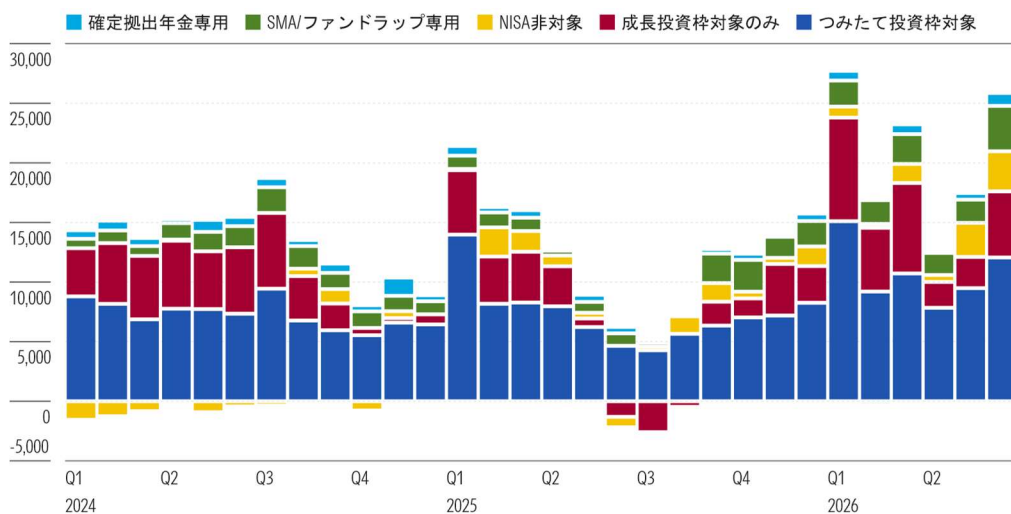
| ユニバース      | 2026 年上半期 | 前年同期   | 2026 年第 2 四半期 | 前年同期   |
|------------|-----------|--------|---------------|--------|
| 全ファンド      | 122,600   | 78,533 | 55,425        | 25,285 |
| うち NISA 対象 | 97,336    | 65,806 | 40,423        | 21,684 |
| 分析対象ファンド   | 105,076   | 69,679 | 46,052        | 21,798 |
| うち NISA 対象 | 95,420    | 64,887 | 39,242        | 21,298 |

出所: Morningstar Direct より Morningstar Research にて計算。

1-5 月の純資金流入額は実績値、6 月の純資金流入額は推計値。（以降も同じ）

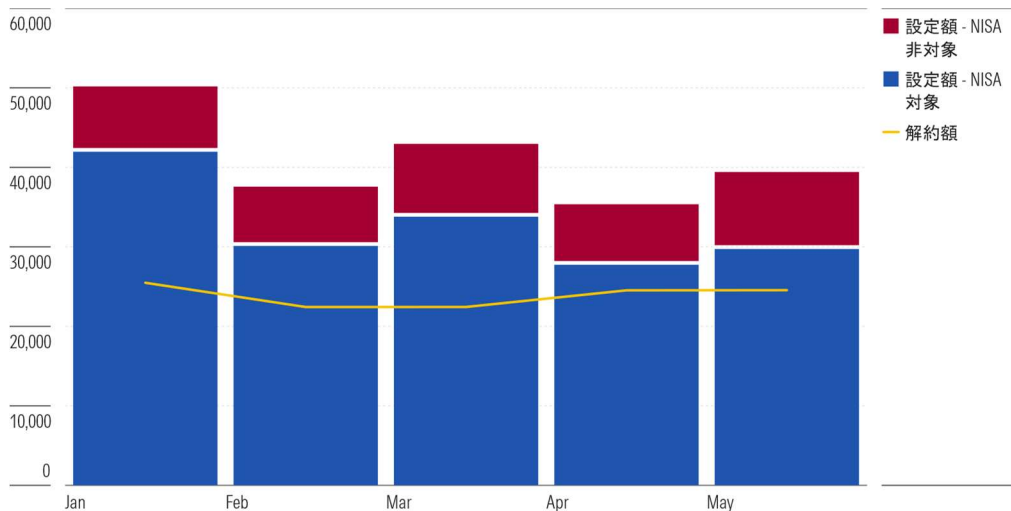
<sup>3</sup> 個人投資家の意思決定に関する資金フローのトレンドを分析するため、確定拠出年金専用ファンドおよび SMA/ファンドラップ専用を除外している。

図表 6 純資金流入額推移 (億円)



設定額（販売額）の動き（図表 7）から見ると、2026 年 1-5 月の分析対象ファンドの設定額は 20 兆 5,445 億円となった。このうち、NISA 対象ファンドは 16 兆 3,321 億円、NISA 非対象ファンドは 4 兆 2,123 億円であり、NISA 非対象ファンドは設定額全体の約 2 割を占めている。特に 5 月は、NISA 非対象ファンドの設定額が 9,684 億円と 1 兆円に迫る水準となった。純資金流入額では NISA 対象ファンドの存在感が際立つ一方、販売額ベースでは NISA 対象外の商品にも継続的に買付需要が確認できる。解約額については大きな変化はなく、分析対象ファンド全体では月ベースで 2 兆円台前半から半ばの水準で推移している。

図表 7 2026 年の分析対象ファンドの設定額と解約額の推移 (億円)



### 純資金流入上位ファンド

2026 年上半期の資金純流入額上位ファンド（図表 8）では、低コストのインデックス・ファンドが引き続き強い存在感を示した。「eMAXIS Slim 全世界株式（オール・カントリー）」が 2 兆 2,473 億円で 1 位、「eMAXIS Slim 米国株式（S&P500）」が 1 兆 1,271 億円で 2 位となり、両ファンドの合計で 3 兆 3,744 億円の純資金流入を記録した。両ファンドは純資産総額でも国内投信市場を代表する大型ファンドとなっており、それぞれの残高は 10 兆円を超えており、他のファンドを大きく引き離している。これらに次いだのが「インベスコ 世界厳選株式オープン〈為替ヘッジなし〉（毎月決算型）」で、上半期の純資金流入額は 8,022 億円であった。上位 3 ファンドの合計では 4 兆円を超えており、個人投資家の資金が一部の大型ファンドに集中して流入する構図は続いている。

この動きは、NISA を通じた長期・積立投資の受け皿として、投資家が低コストで分散性の高いインデックス・ファンドを中核資産として位置づけていることを示している。特に、上位 2 ファンドを含め、低コストの株式型インデックス・ファンドに資金流入が集中していることは、個人投資家のポートフォリオ構築において、シンプルで分かりやすい運用商品が引き続き選好されていることを示唆している。一方で、上半期の上位 30 ファンドを見ると、大半は株式型ファンドであったものの、「ピクテ・ゴールド〈為替ヘッジなし〉」などの金関連ファンドも上位に入った。また、「ROBOPRO ファンド」などのアロケーション型ファンドにも大きな資金流入が見られた。株式型インデックス・ファンドを中心としながらも、金やバランス型商品への資金流入は、投資家が市場変動への備えや資産分散も意識していることをうかがわせる。

第 2 四半期（4-6 月）も、上位の顔ぶれに大きな変化は見られず、低コストのインデックス・ファンドに対する投資家の根強い需要が確認された（図表 9）。一方、5 位以下では一部に変化も見られた。第 2 四半期の上位ファンドでは、AI、半導体、素材関連などのテクノロジー・テーマ型ファンドや、新興国株式ファンドが上位にランクインしており、相場テーマや成長分野を意識した資金流入も目立った。これらのファンドへの流入は、足元の相場テーマや販売会社による商品提案に反応した資金である可能性がある。したがって、上位ファンドへの資金流入を一様な投資行動として捉えるのではなく、低コストインデックスを選好する投資家層と、テーマ性や商品提案に反応する投資家層が併存していると見ることができる。

図表 8 純資金流入額上位 30 ファンド（2026 年上半期）

| ファンド名                                                      | モーニングスター・カテゴリ    | 運用会社     | インデックス・ファンド | NISA対象 | 純資金流入額<br>(億円) |
|------------------------------------------------------------|------------------|----------|-------------|--------|----------------|
| 1 eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)                             | 外国株式・世界型         | 三菱UAM    | Yes         | Yes    | 22,473         |
| 2 eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)                                 | 外国株式・米国型         | 三菱UAM    | Yes         | Yes    | 11,271         |
| 3 インベスコ 世界厳選株式オープン(為替ヘッジなし)(毎月決算型)                         | 外国株式・世界型         | インベスコ    | No          | No     | 8,022          |
| 4 フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド Dコース<br>(毎月決算・予想分配金提示型・為替ヘッジなし) | 外国株式・世界型 (除く日本)  | フィデリティ投信 | No          | No     | 3,915          |
| 5 WCM 世界成長株厳選ファンド(予想分配金提示型)                                | 外国株式・世界型         | 朝日ライフAM  | No          | No     | 2,715          |
| 6 ピクテ・ゴールド(為替ヘッジなし)                                        | コモディティ           | ピクテ      | Yes         | Yes    | 2,515          |
| 7 マテリアル・イノベーション戦略株式ファンド(為替ヘッジなし)                           | 株式・セクター型・テクノロジー  | 三井住友DS   | No          | Yes    | 2,313          |
| 8 楽天・プラス・オールカントリー株式インデックス・ファンド                             | 外国株式・世界型         | 楽天投信     | Yes         | Yes    | 2,093          |
| 9 ROBOPRO ファンド                                             | アロケーション・積極型      | SBI岡三    | No          | Yes    | 1,855          |
| 10 eMAXIS Slim 国内株式(TOPIX)                                 | 国内株式・大型ブレンド型     | 三菱UAM    | Yes         | Yes    | 1,844          |
| 11 ノムラ・エマージング・オープン                                         | 外国株式・新興国型・グローバル  | 野村AM     | No          | Yes    | 1,829          |
| 12 モルガン・スタンレー フィジカルAI株式ファンド                                | 株式・セクター型・テクノロジー  | 大和AM     | No          | No     | 1,750          |
| 13 楽天・プラス・S&P500インデックス・ファンド                                | 外国株式・米国型         | 楽天投信     | Yes         | Yes    | 1,606          |
| 14 iFreeNEXT FANG+インデックス                                   | 外国株式・特定テーマ/セクター型 | 大和AM     | Yes         | Yes    | 1,507          |
| 15 野村世界業種別投資シリーズ(世界半導体株投資)                                 | 株式・セクター型・テクノロジー  | 野村AM     | No          | Yes    | 1,464          |
| 16 ニュートン・パワー・イノベーション・ファンド(為替ヘッジなし)                         | 外国株式・特定テーマ/セクター型 | 三井住友DS   | No          | Yes    | 1,394          |
| 17 東京海上・宇宙関連株式ファンド(為替ヘッジなし)                                | 株式・セクター型・テクノロジー  | 東京海上AM   | No          | Yes    | 1,381          |
| 18 ノムラ・ジャパン・オープン                                           | 国内株式・大型ブレンド型     | 野村AM     | No          | Yes    | 1,365          |
| 19 eMAXIS Slim 国内株式(日経平均)                                  | 国内株式・大型成長型       | 三菱UAM    | Yes         | Yes    | 1,169          |
| 20 eMAXIS Slim 全世界株式(除く日本)                                 | 外国株式・世界型 (除く日本)  | 三菱UAM    | Yes         | Yes    | 1,134          |
| 21 SBI・iシェアーズ・ゴールドファンド(為替ヘッジなし)                            | コモディティ           | SBI AM   | Yes         | Yes    | 1,127          |
| 22 あおぞら・新グローバル分散ファンド(限定追加型)2026-01                         | アロケーション・安定型      | あおぞら投信   | No          | No     | 1,091          |
| 23 たわらノーロード 先進国株式                                          | 外国株式・世界型 (除く日本)  | AM-One   | Yes         | Yes    | 1,038          |
| 24 三菱UFJ 純金ファンド                                            | コモディティ           | 三菱UAM    | Yes         | Yes    | 1,033          |
| 25 のむらップ・ファンド(積極型)                                         | アロケーション・やや積極型    | 野村AM     | No          | Yes    | 986            |
| 26 ベイリー・ギフォード世界成長企業戦略/SMT.LN外国投資証券ファンド                     | 外国株式・世界型         | 三菱UAM    | No          | No     | 944            |
| 27 楽天・プラス・NASDAQ-100インデックス・ファンド                            | 外国株式・米国型         | 楽天投信     | Yes         | Yes    | 939            |
| 28 たわらノーロード 全世界株式                                          | 外国株式・世界型         | AM-One   | Yes         | Yes    | 918            |
| 29 ハイパータ日本株フォーカス・ファンド                                      | 国内株式・大型ブレンド型     | 大和AM     | No          | Yes    | 911            |
| 30 iFree S&P500インデックス                                      | 外国株式・米国型         | 大和AM     | Yes         | Yes    | 907            |

出所: Morningstar Direct。色掛けは上半期中の新設ファンドを示す。

図表 9 純資金流入額上位 10 ファンド（2026 年第 2 四半期）

| ファンド名                                                      | モーニングスター・カテゴリ   | 運用会社      | インデックス・ファンド | NISA対象 | 純資金流入額<br>(億円) |
|------------------------------------------------------------|-----------------|-----------|-------------|--------|----------------|
| 1 eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)                             | 外国株式・世界型        | 三菱UAM     | Yes         | Yes    | 10,489         |
| 2 eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)                                 | 外国株式・米国型        | 三菱UAM     | Yes         | Yes    | 5,326          |
| 3 インベスコ 世界厳選株式オープン<為替ヘッジなし>(毎月決算型)                         | 外国株式・世界型        | インベスコ     | No          | No     | 3,883          |
| 4 フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド Dコース<br>(毎月決算・予想分配金提示型・為替ヘッジなし) | 外国株式・世界型 (除く日本) | フィデリティ 投信 | No          | No     | 1,934          |
| 5 ノムラ・エマージング・オープン                                          | 外国株式・新興国型・グローバル | 野村AM      | No          | Yes    | 1,829          |
| 6 モルガン・スタンレー フィジカルAI株式ファンド                                 | 株式・セクター型・テクノロジー | 大和AM      | No          | No     | 1,750          |
| 7 WCM 世界成長株厳選ファンド(予想分配金提示型)                                | 外国株式・世界型        | 朝日ライフAM   | No          | No     | 1,457          |
| 8 野村世界業種別投資シリーズ(世界半導体株投資)                                  | 株式・セクター型・テクノロジー | 野村AM      | No          | Yes    | 1,152          |
| 9 マテリアル・イノベーション戦略株式ファンド(為替ヘッジなし)                           | 株式・セクター型・テクノロジー | 三井住友DS    | No          | Yes    | 1,047          |
| 10 楽天・プラス・オールカントリー株式インデックス・ファンド                            | 外国株式・世界型        | 楽天投信      | Yes         | Yes    | 1,008          |

出所: Morningstar Direct。色掛けは第 2 四半期中の新設ファンドを示す。

### 新規設定ファンドの動向

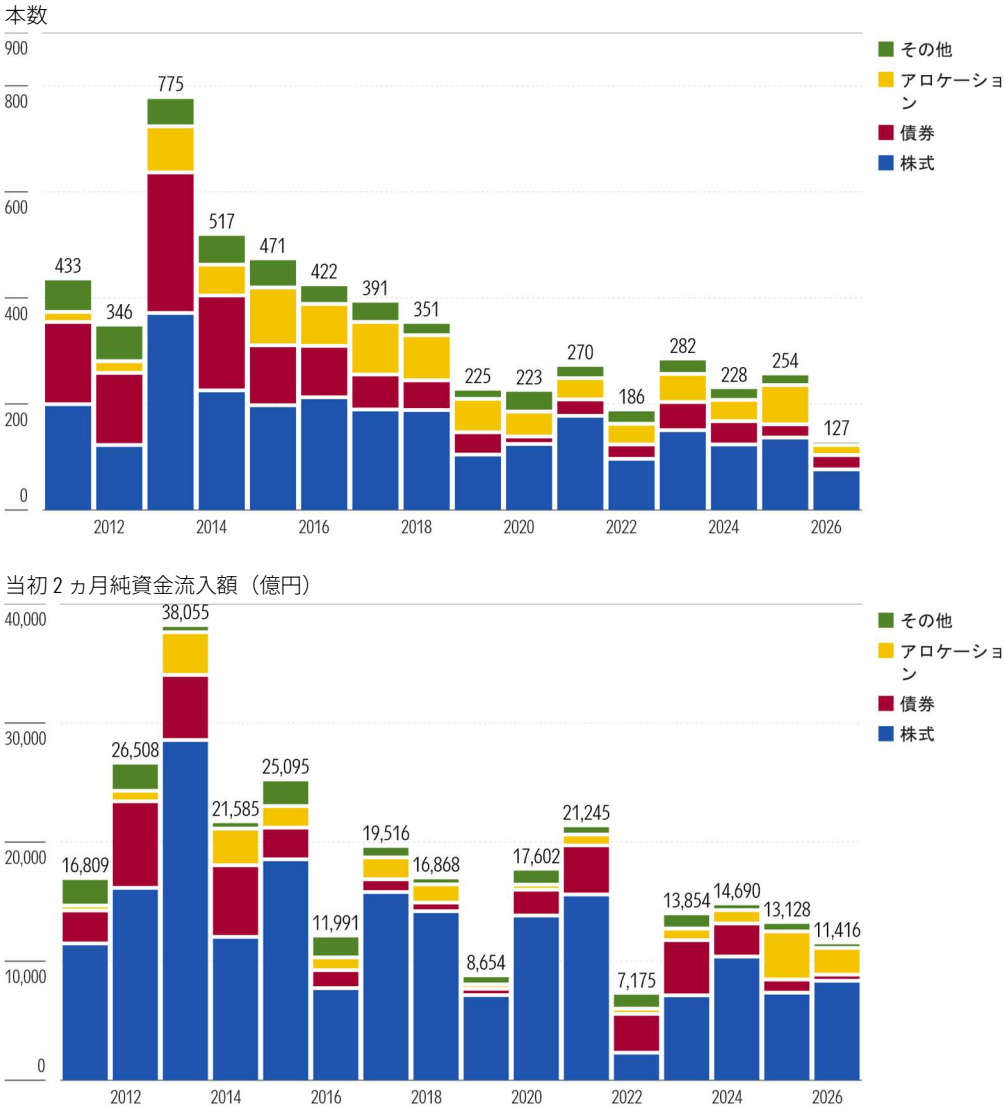
2026 年上半期に新設された一般公販ファンドは 127 本となった（図表 10）。単純に年率換算すれば 250 本程度となり、2019 年以降の年間 200 本から 300 本程度のレンジと大きく変わらないペースで推移している。一方で、新設ファンドへの資金流入額は本数の動きとは異なり、高水準で推移している。設定月および翌月の純資金流入額の合計は、2026 年上半期時点で 1 兆 1,416 億円に達しており、半期時点ですでに 2025 年通年の 1 兆 3,129 億円に迫る水準となった。単純に年率換算すれば 2 兆円を上回るペースであり、新設ファンドへの資金流入額は、新設が盛んだった 2010 年代前半に近い水準で進んでいる。

新設ファンドの資金流入上位（図表 11）を見ると、テーマ性や成長分野を打ち出したファンドに多くの資金が集まった。設定当初 2 カ月の純資金流入額では、「マテリアル・イノベーション戦略株式ファンド〈為替ヘッジなし〉」「ノムラ・エマージング・オープン」「モルガン・スタンレー フィジカル AI 株式ファンド」の上位 3 本が 1,000 億円を超える資金を集めた。上位 3 本はいずれも株式型ファンドであり、テクノロジー、素材、新興国、AI などストーリー性を持ったファンドが、設定直後から大きな資金流入を記録した点が特徴的である。

ただし、ストーリー性を持つようなテーマ型ファンドへの投資には慎重な目線も求められる。テーマ型ファンドに関するレポート<sup>4</sup>でも述べられているように、テーマ型ファンドは期待が高まり株価が上がった局面で設定・販売されることも多く、投資タイミングによっては期待通りのリターンが得られない可能性がある。また、非テーマ型ファンドと比べて運用費用が高い傾向にあることも、長期的なパフォーマンスの下押し要因となり得る。投資家は、テーマの魅力度だけでなく、コストやリスク特性なども確認したうえで投資判断を行う必要がある。

4 「日本のテーマ型ファンドの動向 2026 年 3 月末版」 <https://www.morningstar.com/ja-jp/business/lp/japan-thematic-fund-market>

図表 10 新設ファンドの本数と当初 2 ヶ月資金純流入額の推移



出所: Morningstar Direct より Morningstar Research にて計算。

図表 11 新設ファンド上位 10 ファンド（2026 年上半期）

| ファンド名                                                   | モーニングスター・カテゴリ   | 運用会社     | 設定日       | NISA対象 | 当初2ヶ月純資金流入額（億円） |
|---------------------------------------------------------|-----------------|----------|-----------|--------|-----------------|
| 1 マテリアル・イノベーション戦略株式ファンド(為替ヘッジなし)                        | 株式・セクター型・テクノロジー | 三井住友DS   | 3/13/2026 | Yes    | 1,779           |
| 2 ノムラ・エマージング・オープン                                       | 外国株式・新興国型・グローバル | 野村AM     | 4/21/2026 | Yes    | 1,541           |
| 3 モルガン・スタンレー フィジカルAI株式ファンド                              | 株式・セクター型・テクノロジー | 大和AM     | 4/28/2026 | No     | 1,292           |
| 4 SBI NASDAQ100インデックス・ファンド                              | 外国株式・米国型        | SBI AM   | 5/21/2026 | No     | 753             |
| 5 成長戦略フォーカス・ジャパン                                        | 国内株式・大型ブレンド型    | 三井住友DS   | 5/29/2026 | No     | 715             |
| 6 あおぞら・新グローバル分散ファンド(限定追加型)2026-01                       | アロケーション・安定型     | あおぞら投信   | 1/30/2026 | No     | 686             |
| 7 ハイペータ日本株フォーカス・ファンド                                    | 国内株式・大型ブレンド型    | 大和AM     | 1/26/2026 | Yes    | 611             |
| 8 フィデリティ・世界テクノロジー・厳選株式ファンド（資産成長型）                       | 株式・セクター型・テクノロジー | フィデリティ投信 | 5/26/2026 | No     | 425             |
| 9 あおぞら・新グローバル分散ファンド(限定追加型)2026-04                       | アロケーション・安定型     | あおぞら投信   | 4/24/2026 | No     | 421             |
| 10 One/ティール・ロウ・プライス インフレガード&オポチュニティ・ファンド(モデルポートコース(標準)) | アロケーション・安定型     | AM-One   | 5/26/2026 | No     | 272             |

出所: Morningstar Direct より Morningstar Research にて計算。当初 2 ヶ月純資金流入額は、設定月とその翌月の純資金流入額の合計値。2026 年 6 月の新規設定ファンドは 1 ヶ月分のみを表示している。

### 資産クラス、カテゴリ別

資産クラス別（図表 12）に見ると、2026 年上半期においても株式型ファンドへの純資金流入が圧倒的に多い傾向は変わらなかった。分析対象ファンド全体では、株式型ファンドへの純資金流入額が 9 兆 4,440 億円となり、資金流入全体の大部分を占めた。NISA 対象ファンドに限っても、株式型ファンドへの純資金流入額は 7 兆 8,023 億円に達している。債券型ファンドおよび REIT 型ファンドでは資金流出が続いた。アロケーション型ファンドには、分散投資を意識した資金流入が継続している。2026 年上半期のアロケーション型ファンドへの純資金流入額は、分析対象ファンド全体で 1 兆 1,673 億円、NISA 対象ファンドで 1 兆 1,635 億円となった。株式型ファンドに比べると規模は小さいものの、一定の資金が継続して流入している。これは、株式型ファンドを中心とする投資行動が続くなかでも、資産分散を意識した商品への需要が一定程度存在していることを示している。

ただし、分散投資への需要は一様に広がっているわけではない。金関連ファンドが多く含まれる「その他」の資産クラスは、上半期累計では純資金流入となったものの、第 2 四半期には純資金流出に転じた。2025 年には、アロケーション型や金関連ファンドへの資金流入を通じて、株式一辺倒から分散投資へ向かう兆しが見られたが、2026 年第 2 四半期の資金フロー動向は、その流れが鈍化したことを示唆している。

長期投資において、株式などのリスク資産を一定程度保有することは、経済成長の恩恵を享受するうえで合理的である。一方で、すべての投資家にとって株式型ファンドへの集中が最適とは限らない。アロケーション型への資金流入は分散投資への関心を示すものの、債券型・REIT 型からの資金流出や「その他」の第 2 四半期における流出を踏まえると、分散投資の広がりはおも限定的である。投資家が自身のリスク許容度に応じて、株式型ファンドだけでなく、アロケーション型、債券型、REIT 型、金関連ファンドなどを組み合わせた、より分散されたポートフォリオを構築していくことが望まれる。

**図表 12** 2026 年上半期と第 2 四半期の資産クラス別純資金流入額（億円）

#### 上半期

| 資産クラス   | 分析対象全体    | 前年同期   | NISA 対象   | 前年同期   |
|---------|-----------|--------|-----------|--------|
|         | 2026 年上半期 |        | 2026 年上半期 |        |
| 株式      | 94,440    | 65,553 | 78,023    | 55,009 |
| 債券      | -2,811    | -2,903 | 613       | 804    |
| REIT    | -2,492    | -563   | -596      | 285    |
| アロケーション | 11,673    | 5,023  | 11,635    | 5,588  |
| その他     | 4,265     | 2,569  | 5,745     | 3,101  |

#### 第 2 四半期

| 資産クラス   | 分析対象全体        | 前年同期   | NISA 対象       | 前年同期   |
|---------|---------------|--------|---------------|--------|
|         | 2026 年第 2 四半期 |        | 2026 年第 2 四半期 |        |
| 株式      | 44,746        | 20,348 | 34,605        | 16,715 |
| 債券      | -999          | -1,472 | 147           | 334    |
| REIT    | -1,308        | -88    | -359          | 133    |
| アロケーション | 5,198         | 2,143  | 5,043         | 2,452  |
| その他     | -1,584        | 867    | -194          | 1,635  |

出所: Morningstar Direct より Morningstar Research にて計算。

カテゴリ別の資金フロー動向を見ると、2026 年上半期も、外国株式・世界型や外国株式・米国型など、海外株式に投資するカテゴリが純資金流入額の上位を占めた（図表 13）。これらのカテゴリには、低コストの世界株式、米国株式インデックスファンドが多く含まれており、NISA を通じた長期・分散投資の資金流入が、引き続きこれらのカテゴリを押し上げている。

第 2 四半期においてもこの傾向は大きく変わらないが、ストーリー性を意識したカテゴリへの資金流入も確認された（図表 14）。AI、半導体、素材関連などのテーマ型ファンドや、新興国株式ファンドが上位ファンドに入ったことを反映し、テクノロジー関連や新興国株式関連のカテゴリにも資金が向かった。ただし、このような資金流入はカテゴリ全体に広く流入しているというより、一部の新設ファンドや特定の販売チャネルを通じた個別ファンドへの資金集中という側面もある。したがって、テーマ型ファンドへの関心は高まっているものの、投資家全体の資金配分が一律にテーマ投資へ傾いているとまでは言い切れない。

国内株式では、日経平均株価が高値圏で推移する中でも、日経平均連動のインデックスファンドを多く含む国内株式・大型成長型から目立った資金流出は見られなかった点が注目される。従来は、日経平均が大きく上昇した局面では利益確定とみられる資金流出が生じやすかったが、第 2 四半期はその動きが限定的であった。国内株式についても、短期的な売買対象としてだけでなく、長期保有資産として捉える投資家が一定程度増えている可能性がある。

流出面では、外国株式・インド型からの資金流出が目立った。インド株式ファンドは、2 年前は長期的な経済成長ストーリーを背景に資金流入上位に入ることも多かったが、2026 年上半期および第 2 四半期では純資金流出額の上位カテゴリとなった。長期的な成長ストーリーを背景に資金を集めた国別・テーマ型ファンドは、短い期間で資金流出に転じやすい面があることをうかがわせる。

図表 13 2026 年上半期純資金流入出額上位 10 カテゴリ（億円）

| 純資金流入額上位 10 カテゴリ |        | 純資金流出額上位 10 カテゴリ    |        |
|------------------|--------|---------------------|--------|
| カテゴリ             | 純流入額   | カテゴリ                | 純流出額   |
| 外国株式・世界型         | 41,065 | 外国株式・インド型           | -2,183 |
| 外国株式・米国型         | 17,548 | トレーディング・ブルベア型       | -1,252 |
| 株式・セクター型・テクノロジー  | 11,194 | 外国 REIT・米国型         | -1,051 |
| 外国株式・世界型（除く日本）   | 9,476  | 外国債券・世界型（円ヘッジ）      | -991   |
| 国内株式・大型ブレンド型     | 6,757  | 外国債券・世界型（除く日本、円ヘッジ） | -879   |
| コモディティ           | 6,267  | 国内 REIT             | -727   |
| アロケーション・やや積極型    | 5,265  | 国内株式・中小型成長型         | -612   |
| 国内株式・大型成長型       | 3,469  | 外国株式・米国型（円ヘッジ）      | -609   |
| アロケーション・積極型      | 3,163  | 株式・セクター型・ヘルスケア      | -568   |
| 外国株式・新興国型・グローバル  | 2,987  | 債券・その他              | -513   |

出所: Morningstar Direct より Morningstar Research にて計算。

図表 14 2026 年第 2 四半期純資金流入出額上位 10 カテゴリ（億円）

| 純資金流入額上位 10 カテゴリ |        | 純資金流出額上位 10 カテゴリ |        |
|------------------|--------|------------------|--------|
| カテゴリ             | 純流入額   | カテゴリ             | 純流出額   |
| 外国株式・世界型         | 19,748 | 外国株式・インド型        | -1,326 |
| 株式・セクター型・テクノロジー  | 8,694  | トレーディング・ブルベア型    | -1,152 |
| 外国株式・米国型         | 8,487  | アロケーション・その他      | -645   |
| 外国株式・世界型（除く日本）   | 4,560  | 国内 REIT          | -538   |
| 外国株式・新興国型・グローバル  | 2,390  | 外国 REIT・米国型      | -439   |
| 国内株式・大型ブレンド型     | 2,355  | 株式・セクター型・ヘルスケア   | -385   |
| アロケーション・やや積極型    | 2,351  | 国内株式・中小型成長型      | -364   |
| アロケーション・積極型      | 1,321  | 外国株式・米国型（円ヘッジ）   | -342   |
| 国内株式・大型割安型       | 848    | 債券・その他           | -327   |
| アロケーション・標準型      | 820    | 株式・その他           | -305   |

出所: Morningstar Direct より Morningstar Research にて計算。

レーティング別

過去のカテゴリ内におけるリスク調整後リターンを相対的に比較したモーニングスター・レーティング別の資金フロー（図表 15）を見ると、5 つ星および 4 つ星ファンドへの純資金流入が継続して確認された。対照的に、アクティブ・ファンドでは、2 つ星および 1 つ星ファンドからの純資金流出が続いている。このような傾向は、投資家がファンド選定において過去のパフォーマンスを引き続き重視していることを示唆している。

ただし、過去のパフォーマンスが優れていたとしても、将来的に同等の運用成績が持続する保証はない。そこで補完的な指標として活用されるのが、アナリストによる定性評価とそれを反映した定量モデルで構成されるモーニングスター・メダリスト・レーティングである。メダリスト・レーティング別の資金動向（図表 15）を確認すると、インデックス・ファンドにおいては、金・銀・銅といった高評価ファンドへ資金が集中する傾向が鮮明である。一方、アクティブ・ファンドについては、メダリスト・レーティングによる資金流入の差異は限定的となっている。

図表 15 レーティング別純資金純流出入額（億円）<sup>5</sup>

## モーニングスター・レーティング別

| レーティング | 2026 年上半期 |        | 第 2 四半期 |        |
|--------|-----------|--------|---------|--------|
|        | アクティブ     | インデックス | アクティブ   | インデックス |
| ★★★★★  | 12,722    | 24,995 | 8,504   | 16,412 |
| ★★★★   | 1,006     | 27,186 | 640     | 8,238  |
| ★★★    | 8,631     | 1,831  | 3,467   | -648   |
| ★★     | -4,892    | -204   | -2,820  | -126   |
| ★      | -1,874    | -22    | -1,377  | -11    |
| 対象外    | 17,630    | 18,067 | 7,746   | 6,026  |

## モーニングスター・メダリスト・レーティング別

| レーティング                                                                                   | 2026 年上半期 |        | 第 2 四半期 |        |
|------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|--------|---------|--------|
|                                                                                          | アクティブ     | インデックス | アクティブ   | インデックス |
|  Gold   | 310       | 29,059 | 39      | 6,561  |
|  Silver | 921       | 34,241 | 74      | 10,611 |
|  Bronze | 1,929     | 3,081  | 425     | 603    |
| Neutral                                                                                  | 6,414     | 2,709  | -993    | 781    |
| Negative                                                                                 | 13,829    | -1,017 | 3,653   | -174   |
| 対象外                                                                                      | 4,586     | 25,785 | 4,469   | 7,699  |

出所: Morningstar Direct より Morningstar Research にて計算。

<sup>5</sup> 各ファンドのレーティングは毎月計算されるため、モーニングスター・レーティング別については資金流入月の前月末基準のレーティング、モーニングスター・メダリスト・レーティング別は前々月末基準のレーティングをそれぞれ用いて分類し集計している。

### まとめ

NISA を通じた資産形成は一段と拡大している。証券会社全社における新 NISA 残高は 2025 年末に 29.8 兆円となり、2024 年末の 13.5 兆円から 2 倍以上に増加した。残高増加の主因は資金流入であり、2024 年末から 2025 年末にかけての純資金流入額は 11.1 兆円と、残高増加分の約 7 割を占めた。一方で、NISA 口座の約 4 割は 2025 年中に買付がない未稼働口座であり、制度の認知・口座開設が進むなかでも、実際の投資行動につなげることは引き続き課題である。また、世代によって利用状況には差があり、現役世代ではつみたて投資枠を中心とした利用が広がる一方、高齢層では成長投資枠中心の利用が目立つなど、NISA の使われ方には明確な違いが見られる。

投資信託市場への資金流入も、引き続き高水準で推移している。2026 年上半期における日本籍公募株式追加型投資信託への純資金流入額は 12 兆 2,600 億円となり、前年同期の 7 兆 8,533 億円を大きく上回った。第 2 四半期も 5 兆 5,425 億円と前年同期から倍増し、月別では 2025 年 9 月から 10 カ月連続で 1 兆円を超える純資金流入となった。資金流入の中心は引き続き NISA 対象ファンドであり、なかでも低コストのインデックス・ファンドへの資金流入が続いている。一方で、AI、半導体、素材、新興国株式など、相場テーマや成長分野を意識したファンドにも資金が向かっており、低コストインデックスを中核に据える投資家層と、テーマ性や販売会社の商品提案に反応する投資家層が併存しているとみられる。

今後は、NISA を通じた長期投資の拡大を維持しつつ、特定の商品や資産クラスに過度に偏らないことが重要となる。2026 年上半期も株式型ファンドへの資金流入が圧倒的に多い一方、アロケーション型ファンドにも継続的な資金流入が見られ、分散投資を意識した動きも確認された。ただし、債券型・REIT 型では資金流出が続き、金関連ファンドを多く含む「その他」の資産クラスも第 2 四半期には流出に転じるなど、分散投資の広がりにはなお濃淡がある。また、新設ファンドではテーマ性や成長分野を打ち出したファンドが大きな資金を集めたが、テーマ型ファンドは期待が高まった局面で設定・販売されることも多く、投資タイミングやコスト、リスク特性には注意が必要である。投資家には、株式型ファンドを中核としつつも、自身のリスク許容度に応じて、アロケーション型、債券型、REIT 型、金関連ファンドなどを組み合わせた、より分散されたポートフォリオを構築していくことが求められる。○

## Morningstar Manager Research Services ディスクロージャー（日本）

### モーニングスター・マネジャー・リサーチについて

モーニングスター・マネジャー・リサーチは、運用商品の戦略に対し、独立の立場からのファンダメンタル分析を提供しています。運用担当者（People）、運用プロセス（Process）、運用会社（Parent）の3つの主要な評価軸についてのアナリストのリサーチに基づく見解は、モーニングスター・メダリスト・レーティングとして公表されます。世界中のリサーチチームが、投資商品、資産クラス、および各地域にまたがる戦略について、詳細なアナリスト・レポートを発行しています。メダリスト・レーティングは、意見であり、事実の表明するものではなく、将来のパフォーマンスを示唆または保証するものではありません。

### モーニングスター・マネジャーリサーチ・サービスについて

モーニングスター・マネジャーリサーチ・サービスは、モーニングスターのファンドリサーチ・レポート、レーティング、ソフトウェア、ツール、およびモーニングスター独自のデータの提供と、モーニングスターのマネジャーリサーチ・アナリストへのアクセスを同時に実現させています。銀行、ウェルスマネジャー、保険会社、政府系ファンド、年金基金、エンダウメント（寄贈基金）、財団などの機関投資家が、内部で行うデューデリジェンスを補完する機能を提供しています。モーニングスターのマネジャー・リサーチ・アナリストは、Morningstar, Inc.のさまざまな完全子会社（Morningstar Research Services LLC (USA)、Morningstar UK Ltd、および Morningstar Australasia Pty Ltd が含まれますが、これらに限定されません）に所属しています

### お問い合わせ先

Morningstar Manager Research Services  
ManagerResearchServices@Morningstar.com



モーニングスター・ジャパン株式会社  
東京都港区新橋 1-1-1 日比谷ビルディング 6 階

©2026 Morningstar. All Rights Reserved. 別段の合意がない限り、本資料は配信者の所在する国においてのみ使用することができます。本資料に記載されている情報、データ、分析、意見は、投資助言ではなく情報提供のみを目的としたもので銘柄の売買を推奨するものではありません。また、情報の正確性や完全性を保証するものでもありません。本資料の内容は、記載された日付時点のものであり、予告なく変更されることがあります。モーニングスターは、法律により定められている場合を除き、本資料の情報、データ、分析、意見を利用して行ったいかなる投資の判断、損失、損害に責任を負いません。本資料にはモーニングスターの専有情報が含まれており、モーニングスターから事前の書面による承諾がない限り、当資料の一部あるいは全ての複製ならびに再配布等の使用はできません。過去のパフォーマンスは、必ずしも金融商品の将来のパフォーマンスを示唆するものではありません。リサーチに関するライセンス利用のお問い合わせは+1 312 696-6869までご連絡ください。